

永田町新潮流 平沢勝栄

# 俺がやらねば



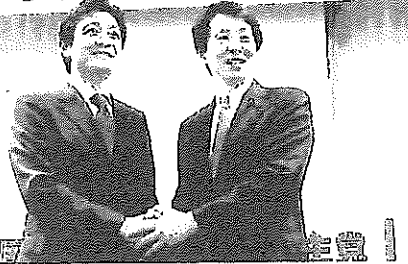
先週末、民進党代表だった大塚耕平参院議員とインターネット番組で一緒になった。大塚氏は週明けの7日、「選挙に勝つには野党の一本化が必要」との判断から、民進党と希望の党を合流させ、新たに「国民民主党」を立ち上げた。私は政治家としての大塚氏を心から尊敬しているが、この新党立ち上げだけではその意図、目的に疑問を抱いている。

もともと、昨年秋に大半の民進党衆院議員が加入した希望の党は、憲法改正や安全保障法制の容認を掲げていた。

民進党とは考え方が異なるはずで、両党が再び合流しても、相乗効果への期待は薄いのではないか。

国民民主党の共同代表に就任した大塚氏によれば、他の

国民民主党



国民民主党を立ち上げ、握手する大塚氏(右)と玉木雄一郎共同代表

## 「国民民主党」立ち上げの意図、目的に疑問

野党に選挙での協力を働きかけるという。その中心は、共産党だ。しかし、同党は「自衛隊は違憲」と主張している。大塚氏は、この点が今後協力していく際の「最大のネック(障害)」と言っていた。

国の安全保障の根幹に関わ

確かに過去の選挙をみて、共産党と組めば、確実に

る自衛隊について、考え方を全く異にする国民民主党と共産党が選挙協力するとなれば、当然政策面で影響が出てくるだろう。国民民主党は「選挙目当ての大義なき協力」との批判を免れないのではないか。

最近、安倍晋三内閣や財務省、そして防衛省などでさまざまな問題が続出し、内閣支持率は大幅に下落した。一方、自民党は、30%台の支持率を維持している。大塚氏らは、地元の多くの人から自民党への苦言、提言を頂いた。同時に、それを上回る激励も頂いた。自民党は長年にわたり培ってきた経験と実績、そして安定感を有している。このことが多くの人に評価されているのではないか。日本の政治に今、求められるのは、与党を脅かし、政権を担えるライバル政党の存在である。両者が切磋琢磨(せつさたくま)することで、緊張が出てくるのだが、そうした政党は今、野党に存在しない。こうした事情も、自民党への期待を大きくしているといえる。

(自民党衆院議員)

朝鮮半島問題を含め、日本を取り巻く内外の情勢は極めて厳しい。政権与党の私たちは責任の重さを自覚し、もっと謙虚になって今の厳しい諸課題に取り組む、国民の期待に応えるべきだろう。